

青葉台ようこ皮膚科クリニック (横浜市青葉区)



「青葉台ようこ皮膚科クリニック」は2017年3月に、山口容子院長が「ホームドクターとして生まれ育った土地で貢献したい」との思いのもと、開業されました。開業と同時にBMLの電子カルテシステム「Qualis (クオリス)」を導入し、その後「Qualis Cloud (クオリスクラウド)」へと移行。山口院長にシステムの移行時の感想や運用効果などを伺いました。



信頼できるサポート体制で安心の運用を実現

BMLの電子カルテ導入の決め手とBMLとの信頼関係

開業にあたり、電子カルテは3社から紹介を受けたという山口院長。BMLを選んだ理由について、「一番の決め手は、プレゼンに来てくださった方の対応がとても丁寧で、こちらの状況や立場をよく理解したうえで、終始細やかに配慮してくださると感じられたこと。困ったときにも相談しやすく、安心して一緒に進めていけるという信頼感がありました」。

BMLとの関係で特に大切にされているのが、担当インストラクターとの信頼関係。「不安なことや困ったことがあったとき、すぐに相談でき、レスポンスも早い。そういう方に担当していただけているのは本当にありがたいです。私にとってもスタッフにとっても、絶対的な信頼を置いている存在です」。

BMLが複数の皮膚科クリニックを担当していることで、皮膚科に特化した情報や知見を共有してもらえる点も高く評価されています。「医師会では他科の先生との交流が中心になりがちですが、BMLさんを通じて皮膚科の最新情報を教えていただけるのはとても助かっています。AIがどれだけ進化しても、結局は人とのつながりだと思っています。機械がいくら優れていても、それを使いこなすのは人。BMLさんとは、困ったら相談しようと思える関係を築いてこられた。それがあったからこそ、ここまで一緒にやってこられたと感じています。これからも時代の変化に合わせながら、一緒にやっていけたらと思っています」。

クランク入力とよく使う機能

院長は、常に患者さんの顔を見て話すことを大切にされています。そのため、同クリニックではスタッフが「クランク」として横に付き、患者さんと話す内容をリアルタイムで電子カルテに入力する運用を採用しています。「私が患者さんに集中できるのは、横でサポートしてくれるスタッフのおかげ」と院長。よく使う機能として挙げられたのが「お気に入りセル」です。「よく使う処方セットを登録しておく、クリックひとつで入力できます。診察時間の短縮につながり、とても助かっています」。保険診療と自費診療をワンクリックで切り替えられる機能も、日々の診療で活用されています。

オンプレミス版からクラウド版への移行

クラウド版への移行のきっかけは「営業の方に勧めていただいたからです。BMLさんとは信頼関係があるのでいいものしか勧めてこないという安心感があり、迷わず移行を決めました」と院長。移行後の使用感については「違和感はまったくありませんでした」とのこと。機器がコンパクトになり、スペースが限られた診察室が少し広くなったことも、実感できるメリットのひとつだったといいます。

クラウド版ならではの利点として、iPadでのカルテ閲覧も活用されています。診療終了時間が遅いため、帰宅後、気になった患者さんのカルテをiPadでチェックできるのは大きな安心材料です。